

# 人と動物の共生

## - 獣医学に何ができるか -

平成12年9月3日(日) 9:30~ 15:30

受講対象者：一般市民、高校生 募集人数：50名 受講料：4,500円

場所：東京農工大学農学部新4号館4-32教室

申込・問合せ先：渡辺 元 (Tel.042-367-5767, 5768: E-mail gen@cc.tuat.ac.jp)

家畜、愛玩動物、実験動物、野生動物など、人間の生活と関わりを持つ動物は極めて多種多様にわたり、動物に対する社会的関心も多面化しつつある。本公開講座は、講師陣がそれぞれの専門分野の立場から人と動物の共生に関し獣医学に何ができるのかわかりやすく解説するとともに、関連分野に関心のある市民や若者の意識をいっそう高めることを目的とする。



**子供と動物のより良い関係を目指して (渡辺 元 獣医学科・助教授)**  
現在多くの小学校で、ウサギやニワトリ、ハムスターが、主に情操教育のために飼われています。これらの動物を学校で飼うことについて、動物の側から改めて考えてみます。また、動物の学校飼育に対する獣医師会の取り組みを紹介します。さらに、小学校の動物教育に対して私たちが行っている協力を例に、今後小学校での動物飼育をどうすべきか、考えます。



### 人と野生動物との共存 (佐藤俊幸 獣医学科・講師)

人と野生動物の共存を考える時、結局は人間の欲望の制御という問題に行き着くと思います。生存し子孫を残すことにおいて、生物学的には人間だけが特別な存在ではありません。しかし、人間は生物の進化史上はじめて生態系をコントロールできるほどの能力を獲得しました。人間による自然環境の破壊は野生動物のみならず人間自身をも苦しめています。人間にとって本当の幸せとは何なのか？一市民として皆さんと考えてみたいと思います。



### コンパニオンアニマルと人間社会 公衆衛生の立場から

(林谷秀樹 獣医学科・助教授) 近年、人生の伴侶として飼育されることが多くなったイヌやネコは、コンパニオンアニマル(伴侶動物)と呼ばれるようになり、人間との間で相互に深い依存関係を築くようになってきました。人はコンパニオンアニマルにより心を癒されたり、コンパニオンアニマルも人の深い愛情に包まれて飼育されることで寿命が延びたりと、これら動物と人間との関係が深まることはお互いに利益をもたらす一方で、人畜共通感染症や動物の鳴き声や悪臭など、動物飼育に伴う新たな問題も生じてきております。ここでは、公衆衛生的観点から、人間社会におけるコンパニオンアニマルのあり方について考えてみたいと思います。



### 治療の現場から (鈴木 馨 /FSセンター・助教授)

いろいろな動物がさまざまな問題をかかえて診療室を訪れると、われわれ獣医師は謎を解くように診断し、飼い主と相談しながら治療方針を決定します。治療を進めて行くには障壁にもぶつかりますが、これを突破するためにはいろいろと工夫しなければなりません。診療実務に携わってきた立場からお話します。

交通案内(府中キャンパス)  
(1) JR中央線：国分寺駅南口2番乗場から府中駅行バス(明星学苑経由) 約12分 晴見町下車  
(2) 京王線：府中駅北口バスターミナル2番乗場から国分寺駅南口行バス(明星学苑経由) 約7分 晴見町下車  
(3) JR武蔵野線：北府中駅から徒歩 約12分

